

オリンピック3大会（アテネ、北京、ロンドン）における 男子アメリカ・バスケットボールの戦略の分析

倉石平¹⁾, 斎藤百合子²⁾

¹⁾ 早稲田大学スポーツ科学学術院

²⁾ 早稲田大学スポーツ科学研究科

キーワード: バスケットボール, 戦術, 分析, アメリカ, スタッツ

抄 録

バスケットボール競技におけるFIBAルール(インターナショナルルール)が2010年9月に変更された。大きく変更された点が2点, 3ポイントラインが拡大されたこと, ペイントエリア(制限区域)が台形から長方形に変更されたことである。本研究では, このルール変更に伴い, 世界のトップであるアメリカの戦略の変遷を明らかにするために, スタッツ分析と統計的手法を用いて検証した。

ルール変更前のアテネと北京, 変更後のロンドンとオリンピック3大会を対象とした。また, 各大会のベスト4に進出した国が行った全78試合を対象とした。FIBA公式のBox scoreから分析項目を抽出し, それぞれの項目について, アメリカと, アメリカ以外のデータを他チームとして分類した。3大会とチームによる2要因分散分析を行った。また下位検定として, 単純主効果検定, 多重比較検定も行った。

ロンドンでは, 3ポイントラインの拡大により, 3ポイントシュート率の低下や, 3ポイントシュート試投数の減少が予想された。しかし, アメリカは, 3ポイントシュート率においては確率低下がみられず, 試投数は増加するという結果であった。また, 2ポイントシュートの試投数は減少するという結果であった。一方, 他チームは, 3ポイントシュートの試投数が減少し, 2ポイントシュートの試投数が増加するという結果となった。

北京を境に, アテネとロンドンでは, アメリカと他チームの戦略に逆転が生じていた。アテネではアメリカは, インサイド中心の戦略であったが, ロンドンではアウトサイド中心の戦略であったと考察される。一方, 他チームは, アテネではアウトサイド中心の戦略であったが, ロンドンではインサイド中心の戦略であったと考察される。

スポーツ科学研究, 11, 202-211, 2014年, 受付日: 2013年9月28日, 受理日: 2014年8月8日

連絡先: 倉石平 〒202-0021 早稲田大学スポーツ科学学術院 東京都西東京市東伏見3-4-1Step22

Email: coach_k@waseda.jp